

## 鳥の病気とその対策

### 「便秘」

尻をさかんに振り、いかにもフンをしたそうに息張るような格好をします。スリ餌が固すぎたときによく起こります。手当としては、鳥かごを30分ほどトイレにおいて臭気(アンモニアガス)を嗅がせるか、ヒマシ油かオリーブ油を筆先にひたして肛門にさし入れて塗ってやります。あるいは、食もたれの時と同様に、スポイトでヒマシ油を2~3滴飲ませても効果があります。青菜をいつもより多目に与えるようにしてください。

### 「下痢」

元気がなく、水のような柔らかいフンをします。肛門の周囲もフンで汚れるようになります。原因としては、悪くなっている餌を食べた時や食べ過ぎなどが考えられます。青菜を止め、木炭を細かく刻んで、微量量餌の中に入れてあげます。また、人間用の下痢止めの薬でも粉にして微量量餌と混ぜ合わせてあげても効きます。なお肛門の周囲はぬるま湯に浸したガーゼなどで、よく洗ってあげてください。

### 「風邪」

【症状】軽いうちは透明な鼻水を出し重症になると白っぽくなりさらに黄色化します。羽毛をふくらませてブルブル震え、止まり木に止まったまま元気もありません。

【対策】声桶の障子をはめてやり、暖かくしてやり(摂氏27~28度位)風を避けて日光に当てます。室内で湯を沸かすなどして湿度もあげた方が良いでしょう。餌はなるべくその鳥が好み、消化がよく栄養価の高いものを与えましょう。

### 「声がれ」

【症状】良い声でさえずっていた鳥の声が突然かれてしまいます。

【対策】声桶の障子をはめ、室温、湿度とも風邪の時と同様高めてやります。「特にウグイスの場合は、声桶の中を暗くし、静かに落ち着かせます。」蜂蜜を水で薄めたものをスポイトで少量飲ませます。



## ビギナーズ情報

これから、厳しい冬の寒さを迎えるわけですが、鳥にとっても寒さは大敵です。特に、越冬がはじめてのヒナにとっては、とても大切な時期になります。いちばん効果的で容易な方法として、冬季日暮れの早い時期には、夕方近くになりましたら、カゴの前面に40ワット位の電球を付け、昼間の時間を延長してあげますと、午後6～7時位までエサを食べて運動をしています。少しでも遅くまで、起こしておいて満腹させて寝かしてあげるのです。夜が遅くなれば明るくても鳥は自ずと活動を止めますから、はじめは電球に黒幕を掛け薄暗くした後、消灯いたします。これはヒナだけでなく、親鳥にも適用できることです。またカゴにカバーのようなものを掛けてあげると、ある程度の防寒にもなります。ただし、暖めるにしても温室のようにするのではなく、極端に寒くならない程度にしたほうが鳥の健康には良いのであります。あまり暖かいところで育った鳥は、自然の環境で育った鳥よりも弱いと言われています。



## 年末に向けて!鳥かごの大掃除をしてみませんか?

今年の汚れは今年のうちに。小鳥さんと新たな気持ちでよい新年を迎えるように!

### 「竹かご」

できれば乾いた布でやさしく拭いてください。落ちない汚れは、歯ブラシを使用し水洗いするとよいでしょう。お掃除後は、殺菌のため日光で十分に乾かして下さい。



### 「木製底板」

軽く水洗いしましょう。落ちない汚れは、専用の掃除用具もありますが、お家にあるカッターやスケッパーなどでも、こびりついたフンもはがせますよ。水洗いした場合は、換気の良いところで十分に乾かして下さい。

### 「鉄製ケージ&プラスチック底板」

ケージも底板も水洗いしましょう。エサ入れなども水洗いしましょう。小鳥は、足から病気になる事が多いので、止まり木はよりきれいに洗いましょう。洗剤は木に残ってしまうので、洗剤の使用は避け歯ブラシなどでこすり洗った後、熱湯消毒をして十分に乾燥してください。エサ入れなども、陶器製であれば熱湯消毒をオススメします。

### 「カビ対策」

★竹椿油(弊社取扱商品)がオススメです。唐辛子成分によるオイルで、防虫&防カビに最適です。竹カゴを購入後、もしくはお手元のカゴをきれいにされた後、竹椿油を塗ると汚れが付きにくく日頃のお掃除が簡単になり、竹本来の色つやも保つことができます。

★床用水性ワックスもカビ対策に使えます。竹カゴ使用前に、床用水性ワックスを塗り、匂いが完全になくなるまでよく乾燥させて下さい。後のお手入れが楽になります。

★木製底板も竹椿油&床用水性ワックスどちらも使えます。弊社のマジックシートもオススメです。その名の通り超撥水加工がしてあるので、フンや水浴びの水が中に浸み込みません。汚れも、水を掛けて振り払っただけですぐに落ちる優れたものです。

★一番オススメなカビ対策は、一羽の小鳥に対し2つの同じカゴを用意する事です。カビは「水」が敵ですので、水分を十分にとばすためにも竹カゴを2個用意し一方をきれいに掃除し、十分乾燥している間、もう一方に小鳥を移してそのカゴで飼育します。臆病な小鳥さんが多いので、全く同じカゴを2個用意し小鳥さんが驚いたり、緊張したり、興奮させないようにしてあげましょう。

## インコが人気の秘密。

日本では、多くの人が小鳥と一緒に暮らしていますが、その多くがインコ類となります。人気の理由としては、羽色がきれい・人に慣れやすい・動作がかわいい・ものまねをする・巣引き容易等の点があげられると思います。インコですが多くの種類が存在します。ボタンインコ類やコザクラインコ類は、オスとメスの仲がとてよいくことから『愛の鳥』（ラブバード）と呼ばれています。その多種多様なインコの中でも代表としてあげられるのが、セキセイインコではないでしょうか。このセキセイインコ、もともとはオーストラリア南部が原産地と言われています。今でこそいろいろな色の小鳥たちがいますが、原種は胸と腹が緑色で、背中は黄色の地に黒いシマが入っていたものとされています。日本には明治に入ってから初めて輸入されましたが、その珍しさからとても高価な鳥として扱われました。それが非常によく繁殖をするために次第に安くなっていき、今ではいずれの種類にせよ誰もが手の届くところになったのです。



インコの特徴として、くちばしは鷹のように湾曲し先端は鋭く尖っており果実や種子をつまむことができるようになっています。舌は食物を味わうだけでなく物体を識別する時にも使われます。一般的な性格としては、明るく陽気でにぎやかです。新しいもの、珍しいものが好きで、初めて見るものには興味を示して、観察します。害がない相手だとわかると友達になろうとします。人に慣れやすいのもこうした性格からきているのでしょう。インコはオウム仲間ですから、ほとんどの鳥がものまねをします。歌うということは、異性の関心を引くという意味がもっとも大きいのですが、他にも気分がよいときに気分が高まって鳴くこともあるようです。ただ個体差がありますのでどの鳥も同じようにというわけにはいきません。インコは記憶力がよく、愛情深く接してあげると、よく親しみ他人との識別をしてくれます。飼い主に甘えたり、スキンシップを求めてきてくれる様はきつとあなたを癒してくれるのではないのでしょうか。

### 「ケージ(鳥かご)」

羽を伸ばしてぶつからない程度 40cm×40cm の大きさが必要。  
動き易い大きめがお薦め。餌入れや水入れも必要 (ケージに付属も多い)  
<安全な場所で人間の目線の位置に置く。室温 25 ~ 30℃がベスト>

## オス・メスの見分け方。

**カナリヤ** —— 雄の肛門は腹面から著しく突出して、先端が尖っているに反して、雌の肛門はあまり突起せず先端は割合に平らです。また、雄の頭部は大きく頭や体は長く、脚は高く、色彩は濃い。雌の頭部は小さく、頸や体は短く、色彩も少し薄い傾向があります。

**牡丹インコ** —— 雄雌の判別は困難です。外観による識別法は、全身の羽毛が良く冴えて青緑がかったものを雄。冴えが鈍くて黄色みがかかったものを雌とする方法があります。

**ヤマガラ** —— 雌は雄と殆ど同形同色彩ですが、喉の黒色が多少褐色を帯びており、また下面の栗色も薄い傾向があります。

**文鳥** —— 成鳥になりますと、紅色の濃い方が雄で、雌は雄に比較すると少し淡くなります。また、雄は囀りますが、雌は只クワッ、クワッと鳴くだけです。

## 巣箱を利用する鳥類。

**四十雀科** —— シジュウカラ／ヒガラ／コガラ／ヤマガラ

**椋鳥科** —— ムクドリ／コムクドリ

**啄木鳥科** —— コゲラ／アカゲラ／アオゲラ／オオアカゲラ／ヤマゲラ

**雁鴨科** —— オシドリ

**五十雀科** —— ゴジュウカラ

**ヒタキ科** —— キビタキ

**雀科** —— スズメ／ニウナイスズメ



## カビ対策

もうすぐ梅雨に入りますね。毎年竹カゴにカビが生えてしまって困っている方も多いと思います。材料の竹ヒゴは十分に乾燥させ、水分を飛ばしカビが生えにくいように、しているのですが、どうしてもこの季節には生えやすいのです。そこで、カビが生えてしまった時の対策とカビ防止対策を紹介致します。参考にしてみてください。

### ★カビが生えてしまった時は!!

濃いめの漂白剤につけて、よくすすぎ直射日光で十分に乾燥させて下さい。

《注意》水分が残っていると、さらにカビが生えてしまいますので、直射日光で短時間で充分乾かして下さい。

### ★カビを生えにくくするには!!

竹カゴを購入後、油（オリーブオイル・椿油）やニス塗ると効果があります。具体的な作業は速乾性ニス（油性）を薄め液で薄め、1回目に下塗り作業をし、すぐに乾くので連続で3回ほど丹念に刷毛で塗って下さい。塗り終わったら、2時間も通風性の良い半日陰で乾燥しておけばすぐに使えますが、揮発性溶剤の臭いがなくなってから鳥を入れた方が良いでしょう。この処理をすると、水浴びさせた際の乾きも早くなります。

#### 竹椿油



ネットショップで  
購入できます。

#### 小

内容量：100ml  
希望小売価格(税抜)  
**1,200円**

#### 大

内容量：200ml  
希望小売価格(税抜)  
**2,000円**



### ★一番オススメなカビ防止は!!

なんといっても《水》が敵ですので、水分を十分に飛ばすためにも竹カゴを2個用意し一方をきれいに掃除し十分に乾燥させている間、もう一方に小鳥を移してそのカゴで飼育します。そして、十分に乾燥させたらまた元のカゴに戻すというように、乾燥期間を充分に取れるように2個のカゴを交互に使って頂くと、カビも生えにくいと思います。

## 鳥の健康管理。

日本の暑い夏には、おなかにカビのわく真菌症、あるいは自家中毒コクシジウムなどの病気にかかりやすく、冬の寒い季節には、小鳥にも呼吸器系の病気が多くなります。飼い鳥の環境というものは、カゴの中という限られた狭い世界のことですし、保護者であるわれわれ飼い主の責任として、鳥かごの中をできるだけ快適な住み心地の良いものにしてやることは、当然のことと言えるでしょう。生き物である以上、四季の移り変わりにともなって、その季節にともなって、その季節に適した管理が望ましいのですが、特に梅雨時から酷暑にかけては鳥たちにとって、春の巣引きから換羽へと健康上、生理上、体力を激しく消耗する時期なのです。したがって、飼い主がとくに気を付けてやらなければならない時期です。このような生理変化は、自然環境に対処する小鳥たちの反応でもあって、自分の健康を保つためいろいろな調節作用を体内で営んでいるのです。暑くなってきましたと、汗腺のない鳥たちは呼吸でもって余った体温の放散をしなければならないので、呼吸が早くなり、皮膚血管をひろげて血行を盛んにします。また、両方の翼を体から離し、胸や腹の羽毛を開き、できるだけ皮膚の面を風に当てたりします。しかし、こういう調節も、カゴの中という不自然な環境では、鳥たちには相当な負担となりまた調節作用にも限度があり、無限に調節できるというものではありません。そして、熱射病や消火器障害や栄養失調など、不健康な状態を引き起こすことにもなりやすいのです。鳥の防暑対策といっても、特別な方法があるわけではありませんが、風通しよく湿気の少ない乾燥した涼しい場所にしておくことが重要だと思われまます。鳥カゴは、水浴びの水でぬらしっぱなしにしておいたり、糞で汚したままにしておいたりせず、なるべく小まめに掃除をして、たまには直射日光を当てて、殺菌をかねて乾燥させることが大事です。オススメな方法はカゴ2個を用意し交互に使うとよいでしょう。やはり生乾きではカビの原因になりますので、天日で完全に乾かしてから使うようにするとベストです。湿ったままにしておきますと、湿度を増し体温の放散ができにくいばかりでなく、カビや細菌の温床ともなり蚊の侵入にも良い条件を作ってしまうから、十分注意して下さい。



冬の野山には、夏より少ないですが多くの野鳥たちがいます。夏よりも木の葉がないので見通しがよく、見つけやすく、じっくりと観察できます。しかし、野鳥の種類を見分けるのは最初、容易ではありません。野鳥図鑑をよく見て、特徴を覚えるしかありません。

2月の末くらいになると、小鳥たちの囀り(繁殖期のなわばり宣言)が聞かれるようになります。鳥の鳴き声を聞き分けるのもまた訓練が必要です。聞き分けられるようになると、どのような鳥がいるかすぐわかるし、姿を見たとき種類を見分けやすくなります。



## シジュウカラ

山林で四季を通してもっとも普通に見られる小鳥です。体長 14-15cm。背中の上部は緑黄色で背は青灰色なのが特徴的です。喉から尻にかけてネクタイのような帯があり、この帯の幅広いのがオスで狭いのがメスです。カラ類は混群をつくって樹林帯を移動することが多く、群に出会うといろいろな種類のカラを一度に見ることができます。



## ヤマガラ

ヤマガラは他のカラ類よりカラフルで見つけやすく、人になれやすいので観察しやすい小鳥です。人の手の上の餌を取っていったりします。囀りは抑揚があって聞き分けやすい。体長約 14cm。雌雄同色。